

令和3年度協働の地域づくり活動方針について

令和3年9月

令和3年度第1回荒尾市協働の地域づくり推進委員会

目次

- ◆ これまでの協働の地域づくりについて (P.3)
- ◆ 各地区協議会の令和2年度の活動実績及び令和3年度の実績について (P.4～8)
- ◆ 令和3年度における協働の地域づくりの推進へ向けた事業案について (P.9～10)

これまでの荒尾市の協働の地域づくりについて

R1年～

- ・地区担当職員制度導入
(地域課題の解決に向けた支援)
- ・地区別計画の策定(各地区の課題や
目指す姿の設定)

H24年～

- ・協働の地域づくり推進条例の制定
- ・地区協議会の設立(社会教育連絡協議会
(地域の各団体の代表者で構成する連絡調整組織)
の位置付けの見直し、元気づくりとの統合、協働の地域
づくり交付金の制度化など)

H15年～

- ・協働のまちづくり推進指針の策定(住民自治の領域拡大による自治
システムの構築、質の高い分権型社会・行財政改革の実現)
- ・元気づくり委員会の設立(住民参加による協働の実践・住民自治拡大)

協働の地域づくりを推進するため、地域における組織体制を整備するとともに、
協働の地域づくり交付金を通じて、地域の主体的な活動を支援している

各地区協議会の令和2年度の活動実績及び令和3年度の取組みについて

地区名	活動実績及び今年度の予定	地区名	活動実績及び今年度の予定
荒尾	令和2年度は、行事はほとんど中止。会議は感染状況を見ながら実施。	平井	令和2年度はほとんどの行事が中止。会議は毎月1回実施。地区協議会で公式LINEを立ち上げ、SNS等で情報共有を図っている。
万田	令和2年度は、行事や会議等はほぼ中止。令和3年度は、例年通り実施する予定だが、今後の地域活動の再開は、コロナの状況次第。	府本	令和2年度は、感染対策を講じながら行事や会議等はほとんど実施(敬老会は見送り)。今年度も工夫を講じながら実施予定。
万田中央	令和2年度は、会議は月1回実施したが、行事についてはほとんど中止。令和3年度は事業計画に基づいて実施予定。	八幡	令和2年度は、防災ウォーキングやパトロールは実施。令和3年度も屋外行事をメインに実施する予定。
井手川	令和2年7月豪雨で、井手川地区は被害を大きく受け、防災部会を新たに設置。事業も昨年度から中止。祭り等を運営する役員の高齢化が進んで、実施自体が難しい。	有明	令和2年度は、事業や会議はほとんど中止。元気づくりで防犯パトロールや花壇の整備等は開催。
中央	「中桜祭」が2年連続で中止。令和3年度も室内行事は特に3密になるので実施は厳しいが、屋外の行事は実施予定。	清里	令和2年度は、通学路清掃や玉ねぎ関係の事業は実施。交付金で、今後の活動を見据えた備品等を購入した。
緑ヶ丘	コロナで事業が出来なかったため、エリアマップを作成。今年度も全ての事業が出来ないため、交付金の使途も検討中。	桜山	令和2年度は事業や会議はほとんど中止。令和3年度は、ICTを活用した事業も検討しており、感染対策を行いながら実施予定。

県リスクレベル毎の各地区の会議・行事（屋内・屋外）の開催率

県リスクレベル	会議		行事			
	開催	中止	屋内		屋外	
			開催	中止	開催	中止
5 厳戒 警報	59% (26件)	41% (18件)	33% (2件)	67% (4件)	65% (17件)	35% (9件)
4 特別 警報	90% (9件)	10% (1件)	50% (1件)	50% (1件)	57% (4件)	43% (3件)
3 警報	91% (29件)	9% (3件)	27% (3件)	73% (8件)	56% (29件)	44% (23件)

県リスクレベルが現在の基準となったR2.10.28から、R3.7.31までの期間の会議や行事

- 会議はリスクレベル5においても時間短縮・人数制限等を行いながら一定程度開催
- 屋外の行事はリスクレベルが高い場合も開催率が高い（ウォーキング、グラウンドゴルフ等）
- 各種まつり・敬老会など、規模が大きな行事等は再開が難しい状況が続いている

コロナ禍で生まれた令和2年度の新たな活動



密を避けるためのウォークラリー
イベントの開催(万田中央地区協議会、
万なかの会(有明高专連携))

○公式LINEの開設 (平井地区協議会)

○防犯腕章作成・散歩者への協力依頼 (平井地区協議会)

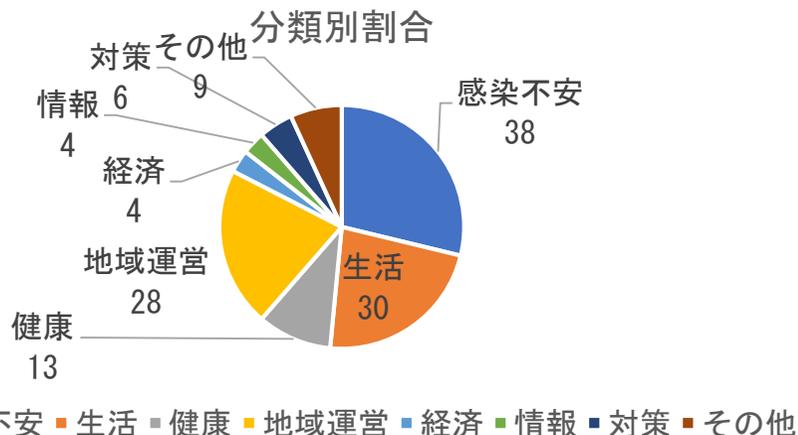
○7月豪雨を契機とした防災部会設立、防災マップ作成 (井手川地区協議会)



地域住民による地区内商店等のPR、
利用促進を図るためのマップ作成
(緑ヶ丘地区協議会)

新型コロナによる地域活動への影響（R2.6地区協役員等アンケート）

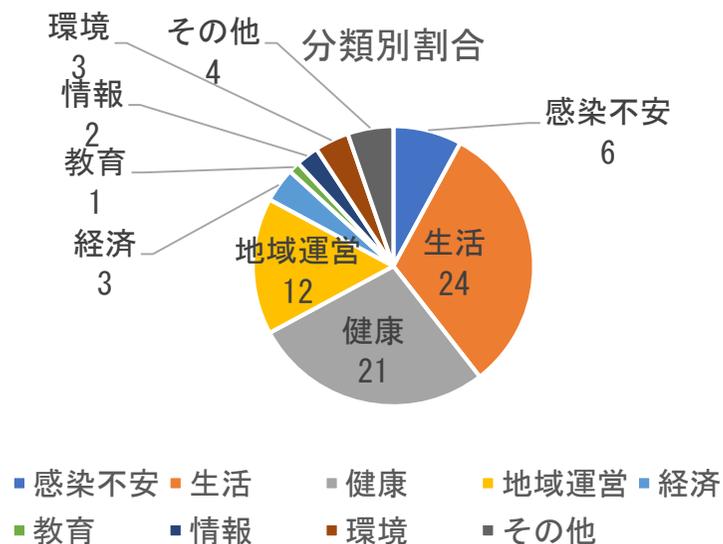
○新型コロナウイルスの影響で困っていること、不安に思っていること



○多かった意見

- ・感染した場合の責任がとれない
- ・コミュニケーションがとれない
- ・感染しないか不安
- ・外出、人が集まる場所に行くのが怖い 等

○新型コロナウイルスの影響でご近所や地区内の知人が困っていること



○多かった意見

- ・高齢者の方のコミュニケーションの場がなくなることが心配
- ・高齢者の運動不足が心配
- ・地域の連携・コミュニティが希薄になる
- ・顔を合わせたコミュニケーションができない 等

対面のコミュニケーションに難しさを感じながらも健康づくりなどの活動に関心が集まっている

協働の地域づくり交付金活用実績状況

◆地域づくり交付金（全12地区） … 6,860,544円（R2）

新型コロナウイルスの影響で、事業等が中止になり、一部地区（井手川・有明）で返還が発生したが、新たな活用方法として、今後の事業展開に向けた備品等の購入が行われた。

※各地区の収支予算・決算は参考資料4のとおり

○交付金の活用例

◆イベント行事関係

- ・密を避けるため、期間を設定したウォークラリーイベントの実施

◆設備・備品関係

- ・事業実施のための感染症対策物品（消毒液等）の購入
- ・防災用品を備蓄する倉庫やテントの購入、交通安全の周知看板設置

◆その他

- ・住民の生活利便性向上のため区内飲食店・事業所等のエリアマップ作成
- ・荒尾市地区別計画の印刷、配付



今年度も交付金の効果的な活用に向けて、事例共有などの支援を行っていく

令和3年度における協働の地域づくりの推進へ向けた事業案について

①地域情報発信支援事業

地域活動を行う中で必要不可欠な「情報発信」

これに関し、デジタル技術を活用し「不便さ」「手間の多さ」「大変さ」「不満」などを減らすとともに、若い世代への地域活動のPRを図ることを検討します。

また、各地区の共通課題に対し、情報伝達を通じた解決方法を検討する為の事業を行います。

【期待する事業の効果】

①事務の効率化

- ・事務負担及び事務費を減らす。
- ・コロナ以降、国はもちろん、市町村単位でも行政DX(デジタルトランスフォーメーション:デジタル化による生活やビジネスの変容)が進むことへの対応。

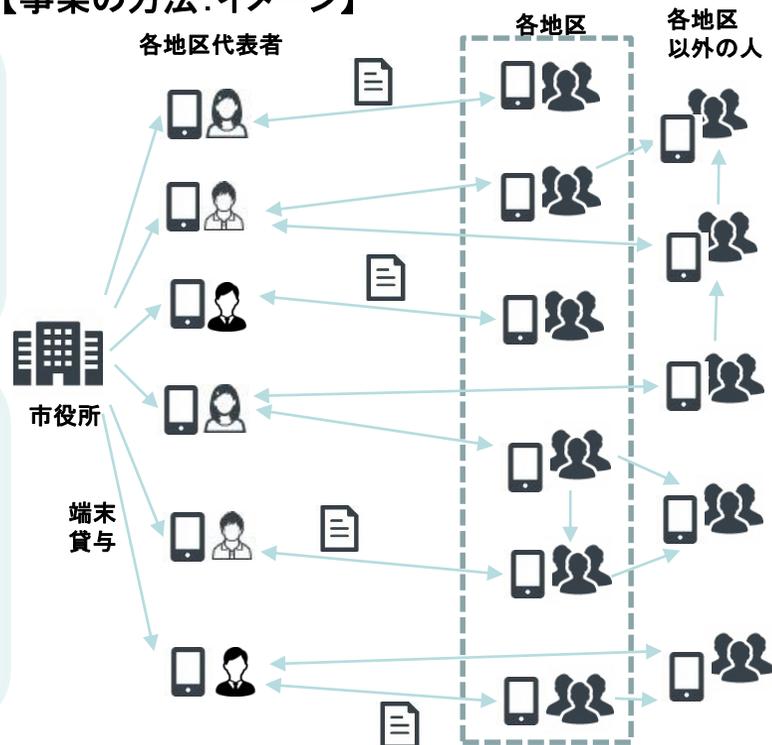
②地域活動のPR

- ・より多くの人に確実に伝える手段を考える。
- ・これまで関係ないと思っていた人が参加できるよう活動を見直し、可能性を広げる。
- ・参加しやすい活動内容を考える。(時間・場所)
- ・地域の特性を活かした活動のPRを行う。

③担い手の育成

- ・若い世代の参加を促す情報提供を行う。
- ・活動を通じ地域に愛着を持つ人を増やす。

【事業の方法:イメージ】



各地区の情報発信の現状や課題の把握を行い、発信媒体に基づき、効果的と見込まれる手法の提案や導入支援を行います。

協働の地域づくり全般に関する活動予定

②協働の地域づくりに係る人材育成事業

◆ 市民活動支援講座（年1回） ※地域住民向け

市民活動の発展や充実を図るため、市民団体のスキルアップを図った講座を毎年実施。

【実績】

R2年度「LINE講座」 ※H31年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

【今年度の予定】

コロナ禍により対面によるコミュニケーションが難しい状況が続いているため、ICTを活用した会議ツール等の講座を実施予定。

◆ 協働の地域づくりに関する職員研修（年1回） ※職員向け

行政と市民の双方の視点を意識した講義と実践による研修を行い、参加職員の市民との対話、コミュニケーション能力及びファシリテーション能力向上を目的に毎年研修会を実施。

【実績】

H31年度「ファシリテーション研修」 ※R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

【今年度の予定】

地区担当職員を主な対象として、地域課題の解決へ向けたワークショップ型の研修を実施予定。